

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
<p>ただしく・やさしく・たくましく のびゆく西っ子</p> <p>～心も体も『元気』な子どもの育成～</p>	<p>① 子どもの、安心・安全が保障される学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる楽しい授業づくり ・安全教育の充実と環境づくり ・異学年の交流と仲間づくり</li> </ul> <p>② 個性に寄り添い、きめ細かな指導を工夫する学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の充実 ・個の能力に応じた支援と授業改善 ・ICT機器の利活用</li> </ul> <p>③ 地域と共にあり、開かれた教育課程を実現する学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協働体制の確立 ・新指導要領への適切な移行 ・開かれた教育課程と情報公開</li> </ul>

**3 目標・評価**

① 子どもの安心・安全が保障される学校 … たたく

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	・授業改善による確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究では、全職員による1回以上の公開授業を実施する。</li> <li>・校外からの講師招聘や実施される公開授業への参観を機会あるごとに実施し、先進的な情報の習得と全職員の共通理解に努める。</li> <li>・全国及び佐賀県学習状況調査での正答率を、県平均及び武雄市平均と同等を目指す。</li> <li>・児童の学習内容の定着を図るために、保護者アンケート「学校は子どもがよくわかるように授業や教材を工夫している」においてA評価を50%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究では、指導案の簡略化を進め、日常的に授業を見合うことを通して、教師の指導技術の向上に努める。</li> <li>・センター講座や各種研修会に参加した職員から、全職員へのミニ伝達講習会を行い、職員の授業改善に生かす。</li> <li>・校外からの講師招聘を実施し、本校の指導法の技術向上に努める。</li> <li>・統一の学習教材使用や西部型授業など、系統的な指導に努め、学力の基礎・基本の定着を目指す。</li> <li>・年間の授業参観の回数を増やしたり、学力向上だより「伸びろ！西っ子！」を『発行したりすることで、保護者の学力向上への啓発を促す。</li> </ul>
教育活動	○ICT利活用教育	・指導法の改善につながるICT機器の効果的な利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した授業実践を、全学級が研究授業や授業参観で公開する。</li> <li>・「スマイル学習」の実施率を、60%以上に上げる。</li> <li>・ICT機器の特色を生かした効果的な指導方法を全職員による研究実践で探る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の利活用による「わかる・できる」授業を目指して、日々実践を積み重ねていく。(タブレットの利用、「スマイル学習」など)</li> <li>・ICT支援員を活用した教材開発や、実践の共有を実施し、校内研究の授業改善と連動させながら、ICT利活用力を向上させる。</li> </ul>
学校運営	○教職員の資質向上	・新たな教育改革への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の職員の目標や課題に合わせた研修計画を実践し、職員アンケートによる達成率を7割以上に高める。</li> <li>・新指導要領移行に対する諸準備を終わらせ、31年度からの事前対応を可能にさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究で学んだことを日常的な取組となるよう、助言する。</li> <li>・先生方の外部機関への研修参加を推奨し、成果について伝達講習を実施する。</li> <li>・初任研の先生を中心にOJTを行うことで、ミドルリーダーの育成も行う。</li> </ul>

② 個性に寄り添い、きめ細かな指導を工夫する学校 … やさしく

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年交流・体験活動の充実</li> <li>・特別の教科道徳の授業改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「楽しんで学校に通う」のA・B評価を、合わせて90%以上に上げる。</li> <li>・平和集会や人権集会の内容を、これまでの反省を生かして改善する。</li> <li>・自然を愛する心を育てる。</li> <li>・特別の教科道徳の授業を、そのねらいを踏まえて充実させる。教師アンケート、「道徳の授業の充実」を70%以上に上げる。</li> <li>・なかよし活動の実践を通して、思いやりの心を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12班の縦割り班(なかよし班)を編成し、青空教室や、なわとび大会、縦割りそうじなどを実施する。</li> <li>・8月に平和集会、12月に人権集会を実施する。</li> <li>・可能な限り児童の手にゆだねながら、年間を通して「花いっぱい運動」に取り組む。</li> <li>・6月のふれあい道徳をはじめとして、全学年で道徳の授業研究、改善に取り組む。</li> </ul>
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめを許さない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員、スクールカウンセラー、保護者などの連携を図り、いじめの早期発見に努める。</li> <li>・教育相談体制を充実させ、保護者アンケート「気軽に相談できる」項目のA・B評価を85%以上に上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回いじめに関するアンケート(月のこころ)を実施し、結果を共有しながら迅速に指導を行う。</li> <li>・週1回の教育相談連絡会を行い、職員の共通理解を図る。</li> <li>・どのクラスもスクールカウンセラーの協力のもと、グループエンカウンター授業を取り入れる。</li> <li>・相談しやすい体制作りのため、保護者からの相談に対しては、管理職が窓口となって誠実に対応する。</li> </ul>
教育活動	○特別支援教育の充実	・一人一人の個性や特性を生かした指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援体制を定期的に見直し、実情に合わせて充実させる。</li> <li>・特別支援学校の巡回相談など、外部の知恵とノウハウを積極的に導入して、教職員の専門性の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に沿って校内委員会や必要に応じた支援会議を実施し、児童の困り感を把握するとともに、適切な対応のための支援体制の共通理解を図る。</li> <li>・講師招聘の特別支援教育研修会を実施したり、特別支援学級(3学級)の授業を公開したりする。</li> </ul>

③ 地域と共にあり、開かれた教育課程を実現する学校 … たたく

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・総合的な健康・安全教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートで、「体を動かすことが好き」な児童を90%以上に上げる。</li> <li>・う歯の治療率を50%以上に上げる。</li> <li>・身体や心の健康について関心をもち、予防や行動化へつなげる児童を育てる。</li> <li>・給食指導や食育の授業を通して、食事と健康に関心を持つ児童を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の学習で、特性に触れることができるように授業を仕組む。</li> <li>・委員会主催の「みんなで遊ぼう会」やスポーツチャレンジに取り組みせ、運動する機会を増やすようにする。</li> <li>・治療助奨を工夫し、治療率へつなげるようにする。</li> <li>・保健学習や保健指導を通して、心身の健康に関心を持たせるとともに、予防法や対処法を身に付けさせる。</li> <li>・栄養教諭をTTに加えるなど、全学年で食に関する授業を実施する。</li> </ul>
学校運営	●志を高める教育	・地域の教育力活用と学校情報の積極的公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の生涯学習プログラムと学校の教育課程との融合を図る。</li> <li>・児童アンケートによる、ノーテレビデーの実施率を90%以上を目指す。</li> <li>・保護者の授業参観参加率、80%以上を目指す。</li> <li>・保護者に向けての情報モラル教育を充実させる。</li> <li>・全児童が北海道の「雄武町」との交流に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事である敬老会、弓野市やふれあい祭りにグループ学年ごとに児童が参加する。</li> <li>・図工や音楽、総合的な学習の時間を活用し、地域から外部講師を招いて全学年が体験活動を行う。(竹細工、焼き物作り、茶道教室、琴体験等)</li> <li>・前年度に引き続き「花まるタイム」を全学級で実施し、地域住民に児童の学習の様子を披露する。</li> <li>・町主催の運動会や相撲大会に学校も共催を組み、児童の活動の様子を広く地域住民に公開し啓発する。</li> <li>・各月初めにノーテレビデーカードを配布すると同時に、学級育友会等で実施状況を保護者に周知する。</li> <li>・学校からの通信やHPなどを利用し、学校行事の周知を保護者及び地域住民に図り、積極的な参加を促す。</li> <li>・懇談会などで情報モラルについても話す機会を設ける。学んだことを家庭で実践するよう呼びかける。</li> </ul>
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務内容の精選	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の効率化を図り、会議時間を20%削減する。</li> <li>・見直しをもって職務に取り組むことにより、効率化を図る。</li> <li>・職員の協働意識を高め、児童への指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議資料を事前に配布し、各担当毎に提案時間を設定する。連絡事項は極力掲示板を活用する。定例職員会議は1時間内で終わるようにする。</li> <li>・行事が充実、精選されるよう、管理職が声掛けをする。振り返りを共有化できるように、パソコンの記録欄を作成する。</li> <li>・指導についての情報交換や共通理解を図る場をこまめにもつ。問題等起こった時にも全職員で迅速に対応する。</li> </ul>

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目